

C-79 日本人青少年の相対成長に関する研究 (第2報)

腰圍に対する胸圍・胴圍・頸付根圍・背肩幅・身長について

お茶の水女大家政 柳沢澄子 高部啓子 ○松山啓子 滝鼻保子

目的 腰圍は、普通には身体の最大周径であり、また身体軀幹部周径でも、胸圍・胴圍にくらべ、他部位に対する相関もやや高い傾向にあるなど、被服設計上重要な項目であると考えられる。本報では、相対成長の基準部位として、腰圍をとりあげ、胸圍・胴圍・頸付根圍・背肩幅および身長について相対成長の立場から観察するとともに、腰圍との関連における均整の変化による成長区分について検討した。

方法 資料は、第1報と同一である。男女それぞれについて、腰圍を2 cm幅で階級に分け、各階級ごとの計測値の平均値を用いて、アロメトリー式の適用を試みた。

結果 (1) 男子では、胸圍・頸付根圍・背肩幅は、いずれも腰圍に対し、3相アロメトリーを示し、胴圍・身長は2相を示す。女子では、胸圍・胴圍・頸付根圍は3相を、背肩幅・身長は2相を示す。

(2) 変移点をみると、男子については、3相を示す項目ではいずれも、腰圍73 cmと85 cmの2時点であり、2相を示す項目では、83 cmにみられる。女子については、3相を示す項目では、第1変移点は腰圍68~71 cmに、第2変移点は81~86 cmにみられる。2相を示す項目の変移点は、腰圍80~81 cmにみられる。

(3) 胸圍・胴圍・頸付根圍・背肩幅の4項目において、第1相では、男女とも劣成長を示し、相対成長係数 α に性差はみられないが、第2相で男子は優成長に転じ、女子は等又は劣成長にとどまるので、その後の腰圍に対する均整の性差は著しい。腰圍に対する身長は、第1相では男女とも等成長に近く、第2相では劣成長を示すが、 α は常に男子大である。